

岡山県環境保健センター調査研究計画書

番号	H27-06	課題名	胃腸炎起因ウイルスの流行状況の把握と迅速で正確な検査法確立に関する研究				
期間	平成28～30年度	担当部課室	保健科学部 ウイルス科				
課題設定の背景	<p>1 政策上の位置付け 本課題は、「岡山県感染症予防計画」における「感染症の発生の予防及びまん延の防止」に資するものである。</p> <p>2 県民や社会のニーズの状況 ウイルス性胃腸炎は集団発生を起しやすく、幼児や高齢者等では重篤になることもあるため、健康危機管理体制の強化が望まれている。</p> <p>3 県が直接取り組む理由 県下でウイルスを扱う検査機関は他になく、健康危機管理上必要な行政検査と連携し実施する必要がある。</p> <p>4 事業の緊要性 毎年多くの患者が発生する感染性胃腸炎には、多種類のウイルスが関与することが知られているが、中でもロタウイルス及びノロウイルスがその多くを占めている。 小児胃腸炎の主な原因であるロタウイルスについては、その感染対策が急務であることから、平成23年よりワクチンが導入され、流行状況に及ぼす影響が注目されている。 一方、ノロウイルスに代表される集団胃腸炎起因ウイルスについては、病因物質及び感染源の究明のために迅速かつ効率的な検査法が求められている。</p>						
	調査研究の概要	<p>1 目標 感染症予防対策及び集団食中毒等の原因究明に資するため、ロタウイルス流行状況を正確に把握することで、ワクチン導入による流行への影響を評価するとともに、集団胃腸炎起因ウイルスを同時に検査可能な遺伝子検査法を確立する。</p> <p>2 実施内容 ・遺伝子検査法を用いてロタウイルスの流行状況を詳細に把握することで、ワクチン導入前後の流行状況を正確に比較し、ワクチン導入による流行への影響を評価する。 ・その他の集団胃腸炎起因ウイルスであるノロウイルス、サポウイルス及びアストロウイルスを同時に検出できる遺伝子検査法を確立する。</p> <p>3 技術の新規性・独創性 ・新たな検査法の開発・改良と疫学解析は先行的である。</p> <p>4 実現可能性・難易度 ・実現の可能性 あり ・難易度 高</p> <p>5 実施体制 5名</p>					
成果の活用・発展性		<p>1 活用可能性 ・ロタウイルスの流行状況把握・流行予測、開発・改良した検査法を用いた胃腸炎ウイルスの疫学的解析・流行予測</p> <p>2 普及方策 ・年報掲載・学会発表、報告等 ・開発・改良した検査法の県内外検査機関への普及、研修指導 ・県、市町村等行政関係への情報提供</p> <p>3 成果の発展可能性 ・集団胃腸炎起因ウイルス同時検出法の普及</p>					
	実施計画	実施内容	年度	28	29	30	総事業費
検査法の開発 流行状況の把握						〔単位：〕 千円	
		計画事業費	628	628	628		1,884
		一般財源	628	628	628		1,884
		外部資金等	0	0	0		0
		人件費(常勤職員)	8,000	8,000	8,000		24,000
総事業コスト	8,628	8,628	8,628	25,884			